

令和3年度 江戸川区立南葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○進んで学び くふうする子 ○思いやりのある子 ○健康で たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○保護者・地域とともに「共育・協働・安心」の学校、「誰一人取り残さない」魅力ある学校 ○「生きる力(知・徳・体の力)」を身に付けた子どもを目指して ○組織的な教育活動を推進し学校の教育力を高めつつ、自らの向上を図る教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 全学年で算数習熟度別指導を実施し個に応じた指導を推進。教科分担制により学年の担任全員で学年の児童を指導する体制整備。外国語活動を専科教員が指導することでALTを効果的に活用した授業を実施。生活指導:あいさつ・あつまり・あしまつ「3つのあ」の中でも特に話の聞き方、くつ箱の整え方が児童に定着。調べる学習コンクールに全学年が出品。6年生による卒業奉仕活動としての校舎外塀の塗り替え。 <課題> マッスルタイム(計算タイム)を導入、放課後補習教室(区の事業)継続、児童の学力向上を目指す。ICTアシスタントの活用。読書科の年間指導計画を見直し、探究的な学習を推進する。学校図書館の整備と教科指導での活用を促進する。働き方改革の推進。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・チャレンジタイム(ペーシックドリル活用補習) ・放課後補習教室の実施 ・漢字/計算コンテストの実施 ・学習規律の徹底	・実施率100% ・ペーシック診断・Aと比較しBの定着率10%アップ ・放課後補習教室年149回 ・児童肯定的評価80%	A	A	○ペーシックドリルの定着率がほぼ目標通りになった。 ○放課後補習教室、漢字/計算コンテストは計画通り進んでいる。 ○学習規律の徹底が認められる。 ●チャレンジタイムの運用について、教員により濃淡があった。	A	外部による放課後補習教室を活用するのは教員の負担を減らすことにもつながるのでよいことだと思う。	学力向上のため「個別最適化」となるチャレンジタイムの運用を図って行く(IPadと紙ベースの併用)。学習規律の徹底を更に維持向上させる。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、昼読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・校内研究での研究授業の実施 ・校内調べるコンクールの実施 ・探究的な学習での学校図書館の利用 ・「おすすめの本」読破	・実施率100% ・保護者肯定的評価80% ・児童肯定的評価80% ・クラスで月3回以上の利用 ・クラスの80%の児童が読破	A	A	○読書科の校内研究をしたことで、学校図書館の利用率が上がり、探究的な学習の充実を図ることができた。 ○前年度と比べ、児童保護者共に読書に対する肯定的評価が上がった。 ●限られた時間の中で「おすすめの本読破」という目標設定が厳しいことが分かった。	A	調べる学習による読書習慣が付いたようでよかった。難しいこともあると思うが、今後も継続していただきたい。	・どの学年も家庭との連携を充実させていく。 ・「おすすめの本読破」ではなく、「自分の設定した目標冊数を読む」に変更。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体育で学習カード活用、中分休み全員校庭・体育館・屋上遊び ・栄養教諭による授業 全学級	・教員・児童意識調査80% ・実施率100%	A	A	南タイムでは、体をたくさん動かしていた。また、遊び場を解放することによって、密を防止しながら体を動かすことができた。	A	コロナ禍の中ではあるが、体を動かすことは大切。	使用した体育カードは、データで保存しておき、共有できるようにする。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・計画に基づく学習の実施 ・外部講師による体験 年3回 ・校内掲示の充実	・実施率100% ・児童肯定的評価80%	B	B	○校内掲示により、参加意識を高める事が出来た。 ○外部講師による体験授業実施。	A	外部講師による体験授業は、これからも続けてほしい。	引き続きオリパラレガシーを意識していく。外部講師授業の継続。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・教科担任制による外国語活動、専科教員それぞれとALTによる外国語授業の充実 ・教材・教具の充実	・児童肯定的評価80%	A	A	○児童肯定的意見81%。 ○ALTを有効に活用し、専科や教科担任制の運用が機能している。	A	今後もALTを活用して、外国語が身に付く授業を実施してほしい。	専科・教科担任制の更なる充実と教員のレベルアップを図って行く。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・学期に一回、生活アンケート・いじめ関連の道徳授業の実施。 ・金曜夕会による共通理解による未然防止、対策委員会・外部連携での早期対応。	・いじめ対応の継続事例0。 ・保護者アンケート肯定的評価80%	A	A	○アンケートの実施や日頃の全教職員の指導の中で、継続案件がなかった。引き続き、児童の生活を見守り、未然防止に努めていく。	A	早期対応が未然防止にもつながると思う。今後も見落としがないように気を付けて取り組んでほしい。	○全教職員での児童理解の充実。 ○年3回の学校生活アンケートによるいじめ関連行動の早期対応。
	規範意識の向上 思いやりのある子の育成	「南小スタンダード生活編」～3つのあ「あいさつ・あつまり・あしまつ」～の組織的な共通実践	・月目標に位置づけ確実に指導 ・週目標ポスターに評価欄を設け毎週、学級で振り返りを実施 ・ほかほか言葉週間学期1回 ・ソーシャルスキルトレーニング6、11、2月	・教員意識調査90% ・児童肯定的評価80% ・保護者肯定的評価85%	A	B	○生活リズムやくつびったんなど特別週間では意識が付いていた。 ・あいさつの習慣づけを行っていく。教員もすれ違う時に、声を出してあいさつし、見本となるようにしていく。 ・学期始めに、生活スタンダードの指導を行う。	A	挨拶をすることにより、適切なコミュニケーションが取れる喜びや楽しさを知ってほしいと思うし、すてきなことだと思う。	○特別週間の意識化。その後、教員による一声指導。 ○教員がすれ違う時にあいさつをする。
	道徳教育の推進	・道徳教育計画に基づく完全実施 ・全校道徳の日の実施 ・道徳だよりの発行 ・外部講師による講演 年1回	・実施率100% ・保護者肯定的評価80%	A	A	○実施率100%、保護者肯定的評価80%以上を達成できた。HPの定期更新、講師の講演も今年には行えた。 ●今年度の内容をこれからも継続していくことが課題である。	A	道徳の定義が難しいと思う。心の教育もしっかりと行い、子どもたちが豊かな人生を歩むことができるようになってほしい。	○管理職と相談し、明確な年間の方向性を示す。 ○部内で情報を共有し、連携して、実施にあたる。	
特別支援教育の充実	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・エンカレッジルームの活用促進	・特別支援教育研修会 年3回実施 ・校内委員会 月1回情報共有 ・校内判定委員会の随時開催 ・ゆりのきとの連携によるHP作成	・実施率100% ・実施率100% ・ゆりのき対象児童の検討の際 ・学期ごとに実施率100%	A	A	○特別支援の必要な児童に対し、保護者の理解や協力を得られるような取り組みを丁寧に実施した。校内委員会の開催、校内判定委員会を円滑に実施し支援教育の必要な児童を支援につなげることができた。	A	素晴らしいこと。全教職員の努力の賜物だと思う。	○ゆりのき支援に関する仕事の円滑化を図るため、書類作成・校内判定委員会までの流れについて一覧を作成する。	
	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実	・教材教具・掲示物の工夫、視覚的支援	・教員肯定的評価80% ・児童肯定的評価80%	A	B	○目当て等の共通フリップの使用、授業の流れの統一化など見通しが持てる授業の工夫など実施した。 ●ユニバーサルデザインの具体的な提示がなかったため、評価しにくかった。	B	もっと工夫の余地はあるかと思うので、ぜひとも改善してさらに良いものにしてほしい。	○教室や授業におけるユニバーサルデザインについて、具体的な例について示していく。	
	・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・副籍学校の申し出によるできない場合は学校だより学年だよりの交換	・実施率100%(交流可能になった場合)	A	B	○各通信を交換する、という交流は100%実施している。 ●交流意欲のない学年は活動を知らなかった。	B	難しいこともあると思うが、充実した取り組みが行われることを期待。	○今年度の活動について随時周知をしていく。	
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修 ・ICTアシスタントによる校内研修の実施(ICTを活用した教員の授業力の向上) ・校内研修の活性化(校内研究・若手研修・伝達研修など)	・Teamsを活用したオンライン授業の実践研修年2回 ・学習系アプリ活用研修年2回 ・教員向けICT研修年2回 ・各学年授業支援 ・月2回の学校訪問 ・分かる・できる授業 ・主体的・対話的で深い学びの授業の実現	・実施率100% ・実施率100% ・児童肯定的評価90% ・実施率100% ・保護者肯定的評価80% ・児童肯定的評価80% ・教員・児童肯定的評価90% ・保護者肯定的評価90%	A	B	○Teamsを活用した授業や連絡の方法の研修を行い、各教員が実践していた。 ○全児童が学習系アプリを活用した学習を行った。	B	今後、必要不可欠な分野になると思う。頑張っていたきたい。	teamsに代替できることを見つけ、順次例示し、各学級で取り入れてもらう。
				A	A	○各教員がICTアシスタントを積極的に活用し、授業支援を受けた。	A	活用を進めていくためにも、研修で身に付けたこと生かしてください。	引き続きICTアシスタントの支援を受け、授業や校務の改善を行う。	
					A	A	○読書科について校内研究を行った。若手研修は課題や改善策について話し合った。 ●コロナ禍で対話的な学習を行うことが難しく課題が残った。	A	今後も継続して取り組み、コロナ禍での対話的な学習も安全に気を付けて取り組んでください。	1単位時間の学習の中で、感染防止対策を講じながら対話的な学習も取り入れていく。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	・「小中連携教育構想」及び各教科等の連携教育プログラムによる連携の充実	・連携プログラムを踏まえた学習指導の実施 ・保護者へのPR	・教員肯定的評価80% ・児童肯定的評価80%	B	B	○計画作成済み。 ●コロナ禍で実施そのものができていない。	B	できることの可能性を追って取り組んでいただきたい。	可能な範囲でできる事を見つけて実施していく。
	共育・協働・安心の学校づくり	・HP、連絡メールを活用した、保護者・地域への積極的な情報発信 ・危機管理マニュアル、コロナ対応マニュアルに基づく全教員の協力体制 ・迅速・確実・丁寧な対応	・配布文書をPDF化しHPアップ ・学校日記 2回/週 更新 ・体育・道徳便りの発行(HP) ・毎月の避難訓練・安全点検の実施 ・コロナ感染防止の確実な対応 ・トラブルの即日解決	・保護者肯定的意見90% ・実施率100%	A	A	○学校だよりや学年だよりを毎月ホームページにアップし、情報共有を図ることができた。 ○学校日記も定期的に更新した。 ○コロナ感染防止対策も確実に行い、クラスターの発生はなかった。	A	ホームページを通して細かな情報を知らせてよかった。今後も継続していただきたい。また、多岐にわたり日々努力されていることに感謝しています。	引き続き、ホームページや連絡メールを活用していく。さらに、Teamsを活用した取り組みにも着手していく。
働き方改革	業務内容の見直し	・時間外勤務の削減	・時間管理の徹底 ・業務効率への意識改革	・対前年比20%の削減	B	D	●学年毎の一斉退勤日を設定し、意識改革に努めたものの、対前年比6.5%の削減にとどまった。	B	不要な業務を削るなど、体調に気を付けて頑張ってもらいたい。	行事の削減も視野に入れて取り組んでいく。